

人間文化研究機構国文学研究資料館

令和4（2022）年度第3回運営会議 議事要旨

- 【日 時】 令和4（2022）年11月4日（金） 15：30～17：10
【場 所】 オンライン会議「Zoom」
【出席者】 安藤、入口（議長）、海野、大隅、大谷、大山、落合、川平、神作、久富木原、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高田、張、西村、ヒューイ、藤實、山地、山本（和）、の各委員
【欠席者】 高埜、山本（聡）の各委員
【陪席者】 渡部館長、島崎管理部長、杵山総務課長、進藤財務課長、片岡学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

続いて、杵山総務課長から、会議の定足数は運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数は12名以上となり、20名出席しているため定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

【第1回（令和4（2022）年6月30日開催）運営会議事要旨確認】

原案のとおり了承された。

入口議長から、当館webサイトにおいて公開予定である旨の説明があった。

【審議事項】

1 研究教育職員の人事について （資料1）

神作委員から、資料1-1及び取扱注意資料に基づき、令和5（2023）年4月1日付けで中古又は中世の韻文を専門とする教授1名の採用について、候補者の経歴や選考過程等の詳細な説明があり、可否投票の結果、了承された。

続いて、神作委員から、資料1-2に基づき、令和5（2023）年4月1日付けでIRを担当する准教授1名の採用について、応募者があったが適任者がいなかった旨の説明があった。

続いて、神作委員から、資料1-3及び取扱注意資料に基づき、令和5（2023）年4月1日付けで日本古典文学を専門とするテニユアトラック助教1名の採用について、候補者の経歴や選考過程等の詳細な説明があり、可否投票の結果、了承された。

【報告事項】

1 特任研究員の人事について （資料2）

入口議長から、資料2に基づき、令和5（2023）年4月1日付けで2名の特任准教授を採用予定である旨の報告があった。

2 研究教育職員の人事（昇任）について （資料なし）

渡部館長から、令和5（2023）年4月1日付けで研究教育職員の人事（昇任）につい

て、今後、人事協議会において書類審査及び面接試験を行った後、次回の本会議において審議予定である旨の報告があった。

3 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の意向表明について (資料3)

神作委員から、資料3に基づき、当館からは、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」及び「参加型人文学資料保全研究プロジェクト」の2件の意向表明をした旨の報告があった。併せて、現在担当教員を中心に申請書を作成し提出予定である旨の報告があった。

山地委員から、「参加型人文学資料保全研究プロジェクト」の具体的なプロジェクト内容及び予算規模について質問があり、神作委員及び山本（和）委員から、多領域の研究者とともに書物や文書の置かれた課題に取り組むためにはラボが必要であると考えていること、また、そのための施設を整備することを想定していることの回答があった。

大隅委員から、「参加型人文学資料保全研究プロジェクト」の一つ目のキーワードが「少子高齢化社会」である意図について質問があり、神作委員及び山本（和）委員から、これからの社会で再教育・リカレントが求められることを視野に入れつつ、地域や地元の資料を市民の方々が扱えるようにできることや、新たなデータインフラの整備については生涯にわたって市民の方々が参画していく仕組みを構築することを目指しており、今後更に内容をブラッシュアップしていきたく旨の回答があった。

4 国文学研究資料館におけるデータベースについて (資料4)

入口議長から、資料4-1及び4-2に基づき、昨年度から日本古典籍総合目録データベースと新日本古典籍総合データベースの統合を進めており、新たに「国書データベース」として公開する予定である旨の報告があった。

続いて、神作委員から、資料4-3に基づき、当館で公開している26本のデータベースについて、システム更新時の経費負担が大きいことなどの理由から統廃合を検討しており、本年度中に各データベースの取扱いについて館内外に周知する予定であることの報告があった。

山地委員から、廃止されるデータベースのうち失われるコンテンツの有無、及びnihuBridgeの活用について質問があり、神作委員から、有用と考えているにもかかわらず積極的に廃止するデータベースはなく、一部のデータベースは既に他のデータベースで同じコンテンツを公開していること、また、nihuBridgeの活用も見据えながら適宜対応していく旨の回答があった。

川平委員から、使用頻度が高い「断本大系本文」及び「日本古典文学大系本文」が廃止されるのは衝撃が大きい旨の意見と代替措置の検討状況について質問があり、神作委員から、この2件のデータベースは、出版社との権利関係の都合上、存続が難しいとの結論に至った旨の回答があった。

佐々木委員から、対応検討中の「古筆切所収情報」及び「蔵書印」は、今後デジタル画像の公開が増加していく中で海外の研究者にとってもより重要性が増すと考えられるため、データベースの存続又は発展を望むとの意見があり、神作委員から、経費や業務負担等に鑑みて総合的に検討していく旨の回答があった。

5 令和5年度概算要求について (資料5)

進藤財務課長から、資料5に基づき、令和5（2023）年度が最終年度となる「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」については前年度と同額要求となったこと、2年目となる古典籍データ駆動研究センターについては増額要求となったこと、及び現在文部科学省と財務省で予算折衝が行われており、12月末頃に内示される予定である旨の報告があった。

6 その他

(資料6)

入口議長から、資料6に基づき、令和4（2022）年度催し物について報告があった。

以上